

地藏などのほら点が存在する氷川町の県道鏡宮原線(写真上)、同道路一帯の景観づくりについて研究成果を発表する八代市の熊本高専生ら(同下)



県道沿いの景観 素敵に

氷川町が依頼 熊本高専生提言

熊本高専八代キャンパス(八代市)で18日、氷川町宮原の街中とJR有佐駅をつなぐ県道鏡宮原線(約1キロ)の景観づくりについて、熊本高専八代キャンパス(八代市)で18日、氷川町宮原の街中とJR有佐駅をつなぐ県道鏡宮原線(約1キロ)の景観づくりについて、

学生による研究結果の報告会があった。昨年2月に結んだ包括協定に基づき、町が高専に頼。一帯を流れる井手

など地域の資源を生かした提案を、町は積極的に取り入れる。取り組んだのは、森山学教授(49)が指導する専攻科生産システム

工学専攻の1、2年生4人。フィールドワークを重ね、古い民家や板垣・生け垣、地藏などが点在し、井手などの水路が多い町の魅力を洗い出した。

こうした調査を踏まえてまとめた「素敵に景観プロジェクト」では、県道や路地、水路に名前を付け、看板を設置して回遊性を向上させることを提案。空き地に水路の水を引き、水辺にアジサイを植える緑化策なども盛り込んだ。

報告会には町職員8人が参加した。「町の良いところに気付かせてもらった。町づくりに取り入れたい」と平逸郎副町長。同高専の中村絢夏さん(21)は「魅力的なものがたくさんあった。これから町づくりに参加していきたい」と意欲を見せた。(木村彰宏)